

報道関係者各位
プレスリリース

2018年2月

株式会社青幻舎

ジャンル：
女性エッセイ（食・旅・アウトドア）

小島聖初エッセイ「野生のベリージャム」発売



個人的な話が得意ではない私が、なぜ今回自分の言葉で何かを人に伝えたいと思ったのか。そのきっかけは、ジョン・ミューア・トレイルを歩いた経験にある。

とにかく毎日が楽しかった。こんな遊び方もあるんだ。こんなに素晴らしい自然の中を歩けるんだ。みんなおいでよ。そう素直に思った。

そしたら人に伝えたくなった。それだけだった。

——本文より

書籍概要

女優・小島聖の野性的でありながら洗練された感性が光る、待望の初エッセイ。

女優としてのキャリアを重ねる一方で、プライベートでは大自然に魅せられ、国内のみならず海外の山へと旅を重ねてきた小島聖。そんな彼女が、バックバックひとつで何日もテントで過ごすような、女性にとっては少々ハードともいえる旅の中で、特に大切にしているのが“何を食べるか”ということ。

ネパール、フランス・モンブラン、スイス・マッターホルン。あるいはヨセミテ溪谷からスタートし、アメリカ本土最高峰のホイットニー山を目指す、全長 340km ものロングトレッキングコース『ジョン・ミュア・トレイル』での 20 日間やここ数年繰り返し訪れているアラスカ。色々な国、様々なシチュエーションの旅で彼女が何を選び、何に喜びを感じたのか。食のエピソードを中心に、その心の移ろいを瑞々しいテキストと写真で辿ります。

かつては、高峰秀子や沢村貞子などの名女優が、ひとりの女性として日々の食卓を綴ったエッセイを遺したように、小島聖もまた、食べることが大好きなひとりの女性として、都会と大自然とを行き来する中で感じたありのままを綴りました。彼女の野性的でありながら洗練された感性がいかに発揮された、読者の日々の生活が少し豊かになる、スパイスになるような一冊です。

推薦文

松たか子(女優)

彼女が、山を一步一步進むときの、静寂の中に響くであろう足音を、私は知らない。でももしかしたら、その一步一步があるからこそ、俳優としてときに、空間を飛び越える大きな一歩があるのかもしれないな、と勝手に想像する。何かを思い、歩く。何も考えず、ただひたすらに進む……。生きていく、生きてるエネルギーに包まれた本でした。そしてつくづく、「聖」ちゃんを生きているんだなあ。

細川亜衣(料理家)

小島聖という人は私たちが一生かかっても見ることのない光を、嗅ぐことのない香りを、感じることのない食べる喜びを知っている。そんな彼女の記すレシピはどんな料理人が書いたものよりも生々しく、美しく、尊い

書誌情報

発売日:2018年3月上旬
書名:野生のベリージャム
著者:小島聖
判型:四六判
総頁:272頁
定価:本体 2,000円+税
ISBN:978-4-86152-642-8 C0095

書籍スタッフ

ブックデザイン:葛西 薫(SUN-AD)
写真:野川かさね(ネパール)、武藤 彩(アメリカ)、石塚元太良(アラスカ)
編集:石田エリ

著者プロフィール

NHK 大河ドラマ『春日局』でデビュー。1999年、映画『あつもの』で、第54回 毎日映画コンクール女優助演賞を受賞。近年、コンスタントに映像作品に出演する一方、話題の演出家の舞台にも多く出演。柔らかな雰囲気と存在感には定評があり、感性豊かな表現で見ている人を魅了している。

本書の中身を紹介

第1章 ネパール、マッターホルン、モンブラン

・ネパール

2010年に初めて訪れて一目惚れしてから7年間通い続けているネパール。エベレスト街道の玄関口の街、ルクラから周辺の山へのトレッキングの情景と共に、「ネパリーティ」や「ダルバート」などの国民食にまつわるエピソードに加え、様々なレシピが登場する。

・マッターホルン

現地で本格的なクライミングの練習を重ねて挑んだ、初めてのヨーロッパアルプス登頂までの9日間の記録。

・モンブラン

「いつかザックの一番上に生のケーキを忍ばせて山歩きがしたい」という夢を叶えた、「モンブランの山頂でモンブランを食べる」までの記録。



第2章 アメリカ ジョン・ミュア・トレイル

ヨセミテ渓谷からスタートし、アメリカ本土最高峰のホイットニー山をゴールとする、バックパッカーの間で最もメジャーな340kmものロングトレイル。約20日間をかけて歩き続けるこのトレイルを、小島の友人でもあるロス在住のカメラマン・武藤彩と共に歩いた2014年の記録。



第3章 アラスカ

この2、3年にかけて何度か旅をしているアラスカ。キャンプ生活を中心に、日本とは全く異なる食材を街で調達し、自生のベリーなどを摘んで、薪で調理をする、荒野の食卓といえるような日常のスケッチ。ワイルドなレシピ多数。

